【樹木の部屋】

サツキツツジ（ツツジ科ツツジ属 Rhododendron indicum ）

和名；サツキ(皐月、杜鵑)　別名；映山紅(エイサンコウ)、杜鵑花(トケンカ)

英名；Indian Azalea

ツツジ目　常緑広葉低木　原産地；日本

花言葉；節約、協力、幸福、貞淑　花の色；白、赤、桃、紫、緑、複色

← 写真－１　サツキツツジの玉作り
撮影日：2023 年 5 月 21 日
撮影場所：奈良県広陵町にて
撮影者：M さん

↓ 写真－２　サツキツツジの花
撮影日：2023 年 5 月 21 日
撮影場所：奈良県広陵町にて
撮影者：M さん

↓ 写真－３サツキツツジの新梢
撮影日：2023 年 5 月 22 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん

→ 写真－４　枝先に二輪咲き
撮影日：2023 年 5 月 22 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ さん

← 写真－５　葉表
撮影日：2023 年 5 月 22 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ さん

← 写真－６　葉裏
撮影日：2023 年 5 月 22 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ さん

サツキの正しい呼び名は「サツキツツジ」です。名前の示す通りツツジの一種なので両者はよく似ています。「サツキツツジ」と「ツツジ」との明確な違いは、開花期で、サツキとは「皐月」、つまり日本の古い暦、太陰暦の５月にあたり、この時期に花を咲かせます。その他のツツジが４月の新芽を吹く前に花を咲かせるのに対して、サツキは新芽がふいた後に花を咲かせるので、両者の見分け方はまず花の花が咲くタイミングです。

サツキとは、狭義では日本に自生する Rhododendron indicum の和名ですが、その R.indicum と近縁多種との交雑から生まれた園芸品種群の総称(Satuki Azalea hybrid)として用いられることもあります。他のツツジ類と比べて花形や樹形についてはほとんど相違がありませんが、開花期が異なるために園芸的に区別されているそうです。

別名の「杜鵑花(トケンカ)」は、明け方まで鳴き続けた杜鵑(ホトトギス)が喉を傷めて血を吐き、その血が垂れて花を染めたという中国の古い詩に由来するそうですが、サツキは日本産であり、杜鵑花は誤用とされるそうです。

日当たりがよく、増水すると水没してしまうような川沿いなどに自生しています。園芸用に乱獲されたほか、河川の護岸工事、ダムの建設によって生育地が少なくなり、絶滅が懸念される植物の一つだそうです。

花は漏斗型で枝先に１輪ずつ(稀に２輪)咲き、ツツジの仲間としては小さめですが、直径 10cm ほどの品種もあるそうです。基本種の花色はオレンジに近い紅色あるいは紅紫で、内側上方に斑点模様が入ります。

花の中央には１本の雌蕊と５本の雄蕊があります。が、稀に１０本ほどの雌蕊を持つ品種もあるそうです。雌蕊(花柱)は無毛で、雄蕊の葯は黒紫色。花の後には乾いた長楕円形の果実がみのり、秋になると自然に裂けて多数の種子を放出します。果実は直径６～12mm で、褐色の剛毛があります。種子を蒔けば増えますが、より容易な挿し木による繁殖が多いそうです。

葉は互生し、葉身は長さ 3cm ほどの披針形で、縁には鋸歯があります。葉の大きさは季節や品種によって様々で、園芸上は「丸葉」「大葉」「小葉」などと区別することもあります。原種の葉は長さ１～４cm ほどでツツジよりも小さく、常緑性ですが秋には赤紫色に紅葉し、寒気が強いと冬季に葉を全て落とす半常緑の性質を持ちます。

園芸品種は２０００種以上だそうですが、多くは近縁のマルバサツキ、クルメツツジや洋種のアザレアとの交配種で、花の色は桃色、紫に近い桃色、白、咲き分け、絞り模様などがあり、八重咲きの品種もあるそうです。「オランダツツジ」や「西洋つつじ」とも呼ばれ、アゼレアとも呼ばれます。色や見た目も鮮やかなものが多く、別名の通り、ヨーロッパで室内鑑賞用として改良された品種の総称です。

萌芽力が強く、剪定によく耐えますが、剪定の適期は花の直後で、８月～５月に剪定すると花が咲かないので要注意です。

＜ちょっと一言＞

サツキとツツジの見分け方

⑴ 開花時期の違い

＊サツキツツジ；

・5 月頃～6 月頃で、新芽が出る前に花が咲く。

・枝先に 1～3 個ほどの花が、１週間ほどかけて咲く。

＊ツツジ；

・4 月頃～5 月頃で、新芽が出てから花が咲く

・枝先に、2～4 個ほどの花が、同じ時期に一斉に咲く

⑵ 雌蕊の数の違い

＊サツキツツジ；5 本(稀に 10 本近く)

＊ツツジ；5 本以上

⑶葉の違い

＊サツキツツジ；互生し、葉身は長さ 2～3cm ほど

＊ツツジの葉は品種にもよりますが、おおむね 4～5cm 程度